

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2674000316
法人名	有限会社 アールエムシー
事業所名	洛和グループホーム千代原口
所在地	〒615-0847 京都市西京区御陵谷町29-2 (電話) 075-382-3121

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年8月24日	評価確定日	平成21年10月26日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 1 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.8 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~80,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,666 円	

### (4)利用者の概要( 7 月 1 日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院、なかお七本松歯科クリニック、辻医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステム一つである当該ホームは、「ともに支え合い生きる」をテーマとし、住み慣れた我家のような共同生活を目指し実現されているグループホームです。西京区の国道沿いに近い住宅地に位置し、釣り堀や神社が近く、環境も良く日々の散歩コースになっています。ホームでは地域との関わりを重視した独自の理念を新たに作成し、ホームを地域にアピールすると共に働きかけ、地域のよろず相談所を目指しています。職員間の風通しを良くし、何でも話し合いながら、連携が取れるようにしています。また法人の協力を得て、利用者の個別外出を支援し、利用者が家族と共に行きたい所へ行きたい形で行けるよう、職員も同行し夢をかなえています。利用者の優しい表情が、日々の穏やかな暮らしを物語っているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の自己評価をもとに、職員間で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げるなど、出来ることから改善に取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価票は昨年度のものを参考に、管理者やリーダーで原案を作成し、カンファレンスで全員の意見を聞いたうえで、管理者が集約し作り上げました。また出来上がった自己評価票は全員に回覧しています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2カ月ごとに、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員等が参加して開催されています。ホームからのさまざまな報告がなされる他、参加者から意見や要望、助言等を頂き、運営に反映させています。また年に2回、行事と兼ねて開催することで、参加者によりホームを知ってもらう取り組みを行っています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しています。職員は常に家族に声をかけ、出来るだけ多く来訪してもらえるようにお願いし、直接意見を聞くように心がけています。法人でも満足度調査を実施し、集計結果について会議を開き、改善策を協議しています。結果は家族にも報告され運営に反映させるなど、積極的に意見を聞く姿勢がうかがわれます。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し民生委員から情報を得て、地域の夏祭りや地蔵盆に参加しています。またホームの納涼祭や餅つきの際に地域に呼びかけ参加してもらったり、地域の一員として清掃活動にも参加しています。ボランティアによるお茶会等を定期的に開催したり、小学生の来訪も予定されるなど、積極的に働きかけをしています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念のもと、カンファレンスの際に何度も職員間で話し合い、今年度新たに事業所独自の理念を作り上げた。地域密着型サービスとして、地域に根差した取り組みを重視した内容の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は法人理念と共に、誰からもよく見えるように玄関に掲示されている。理念をもとに地域との関係作りに取り組み、ホーム行事への地域参加を地道に呼びかけている。また、カンファレンスでも職員に確認し、理念の浸透と共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し民生委員から情報を得て、地域の夏祭りや地蔵盆、地域の清掃活動に参加している。また、ホームの納涼祭や餅つきの際に地域に呼びかけ参加があり、ボランティアによるお茶会等を定期的に開催している。今後は小学生の来訪も予定されるなど、積極的な働きかけがみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の自己評価をもとに、職員間で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げる等、出来ることから改善に取り組んでいる。今年度の自己評価票は昨年度のもの参考に、管理者やリーダーで原案を作成し、カンファレンスで全員の意見を聞き、管理者が集約し作成した。また出来上がった自己評価票は職員全員に回覧している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員等が参加して開催している。ホームからのさまざまな報告がなされる他、参加者から意見や要望、助言等を頂き、運営に反映させている。また年に2回、行事と兼ねて開催することで、参加者によりホームを知ってもらう取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人担当者が一括して区の担当者と面接し、申請や相談業務を行っている。またホームでのボランティア担当職員が、ボランティアについて区の担当者に相談したり、情報をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでは毎月、利用者毎に1か月の様子を知らせる手紙を郵送している。その際に、利用者の写真や日中、夜間の様子が書かれた健康観察記録、バイタルチェック表、出納帳コピーと領収書を同封し、家族に報告している。また常に電話やFAXで連絡したり、利用者の写真入りの季刊誌を発行し、家族の安心に配慮した取り組みがなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また職員は常に家族に声をかけ、出来るだけ多く来訪してもらえるようお願いし、直接意見を聞くように心がけている。法人でも満足度調査を実施し、集計結果について会議を開き、改善策を協議している。結果は家族にも報告され運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の様子を見て、リーダー、管理者が相談に応じ、話を聞くようにしている。異動がある場合は、お別れ会等で利用者にきちんと挨拶し、その後も利用者や文通したり、行事の際にボランティアとして参加してもらう等配慮しながら、利用者のダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として研修計画が確立されており、習熟度に応じて研修に参加している。また外部研修も管理者やリーダーが職員を振り分けて参加している。研修後は資料を持ち帰り報告書を提出し、カンファレンスで情報の共有を図っている。またホーム内でも、職員が不安に思っている事に焦点を置き実技指導等の勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府のグループホーム協議会や法人内の近隣の同業者との会合に管理者、リーダーが参加し、情報交換をしている。他の職員による同業者と交流するまでには至っていない。	○	職員がネットワークを通じ、他のホームとの交流や連携を図ることで同じ悩みを共有したり、日々のケアを振り返り自信につながる等、質の向上につなげていくためにも相互訪問や勉強会等の機会を確保されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に出来るだけ見学に来てもらい、ホームの様子を見てもらっている。法人相談員と管理者が自宅を訪問し、家族の協力を得ながら情報収集を行っている。また自宅で使用していた茶碗やコップ、家族の写真等馴染みの物を必ず持参してもらい、家族の協力を得ながら、徐徐に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から味付けや生活の知恵など教わることも多い。利用者にわからないことを尋ねたり、助けを求める姿勢を心がけ、利用者の出番を演出している。また介助の際に、頭をなでてもらったり、ねぎらいの言葉をかけてもらう等、一緒に生活している事を実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者・家族の思いを聞き、日々の関わりの中で、コミュニケーションを図り、利用者の意向を把握している。センター方式を利用して情報を収集し、カンファレンスで話し合わせ、職員間で共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面接時に家族の意向を聞き、アセスメントをもとにカンファレンスで話し合いケアプランを作成している。カンファレンスに出席できない職員から事前に意見を聞き、全員の意見が反映されたケアプランとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月ごとに見直しされ、面会時に家族に希望を聞き、アセスメントを取り直している。ケアプランに連動された介護記録をもとに、モニタリングをして評価に繋げている。状態に変化が見られる利用者はその都度、カンファレンスを開き、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助はほとんど職員が同行している。利用者の希望により、散歩の途中で喫茶店に立ち寄ったり、毎月の映画観賞、編み物教室に通う等の支援をしている。また法人の協力を得て、年に二回の個別外出を実現し、利用者は家族と共に希望の場所に出かけ、思い出作りの支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者や家族にかかりつけ医について希望を聞いているが、ほとんどの利用者はホームの主治医を希望している。主治医の往診は週に一度あり、受診前には一週間の個別状況を主治医にFAXで知らせ、受診の際に役立てている。また毎週訪問看護師が訪れ健康管理を行い、医療法人ということもあり、救急や夜間も万全の体制が整っている。必要に応じて訪問歯科や皮膚科も診てもらえるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取り指針」について説明し同意を得ている。看取りの経験もあり、家族や主治医、職員が出来ること出来ないことについて確認し合っている。また看取りの際は個々に手順書を作成し、それに沿った介護記録を残し、職員間で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについては、カンファレンスで話し合われ、管理者はその場の状況や個々に応じ、心が込もった言葉かけをするよう伝えている。また個人のファイルは、1階事務所の鍵かかかる書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は個々に合わせ、朝食も好きな時間に取ってもらっている。夜眠れない利用者には、職員と一緒に話をして過ごしている。職員は利用者の状態に応じ、好きな事が出来る支援を心がけている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度食材が届き、職員は冷蔵庫にある食材を元に利用者と相談しながら、献立を立てている。利用者は足りない材料の買い出しや下ごしらえ、味付け、片付けまでを職員と一緒にこなしている。利用者と職員は、全員がテーブルに着き同じ食事を一緒に楽しく頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から夕方にかけて入浴ができるように準備している。希望により毎日入浴したり、今までの生活習慣に応じて夜に入られる利用者もいる。また温泉気分です、広い1階の浴槽に入られる2階の利用者もいる。体調によっては清拭等で対応する場合もあり、1日置きには入浴してもらえるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全職員が考えて、食事の支度や片付け、野菜の水やり、洗濯物たたみ等、利用者が自ら活躍できる場を提供している。また外からの風は大切であると考えており、ボランティアの来訪や近隣の方によるお茶会は、利用者のよい気分転換となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社へ散歩に出かけたり、食材の買い物にも出かけている。通院が楽しいものになればと、帰りに外食や喫茶を楽しんでいる。また法人から費用的な協力を得て、年に2回個別外出を実施し、利用者が家族や職員と共にいきたい所へ行き、希望通りの外出ができるように支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム近くに国道が通っており、不審者等について警察からの指導もあり自衛のため鍵をかけている。家族には説明し、同意を得ている。職員は鍵をかける弊害について、カンファレンスや運営推進会議の議題に挙げ話し合っており、時間帯によっては開錠している場合もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の指導を受け、避難訓練を開催している。またホーム独自でも年に1回、緊急連絡網を使つてのシュミレーションを行っている。地域の協力体制を確立するため、運営推進会議で自治会長や消防団の団長へ参加を呼び掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回記録に残し、水分量も必要な利用者についてはチェックし記入している。見た目も大切にしながら、状況に応じて粥で提供したり、トロミをつけたり、ムース食にするなど、医療関係者の意見をも取り入れた形態で食べやすくしている。食事の内容や食材が書かれた検食簿を毎回記入し、法人の担当者に定期的にチェックを受けるなど体制が整っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ケアハウスとして建てられた建物をそのまま利用しており、階段昇降機を設置し、廊下に家具やベンチを多く配し、移動の際の手すり代わりにする等の工夫がみられる。季節感を味わってもらうために、花を植えたり、プランターで野菜を作るなどしている。また玄関先や居間にソファ、ベンチ、椅子などを置いて気軽に休める場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はトイレ、洗面所が備え付けられ、専用ベランダもある畳敷きの部屋になっている。利用者は自宅より家具、机、仏壇、ピアノ、家族の写真、自作の作品等を持ちこまれ、配置を工夫しながら、居心地良く過ごされている。		